復興が進むニューヨーク・グランドゼロの現場

地下鉄駅舎の銅配管

グランドゼロの「銅管」復興現場に の姿を見た

今回、お話を伺ったのは、欧米の給水事情に詳しい御園良彦氏。御園氏は、5月にニューヨークで開催された「第二回世界大都市気候変動サミット」に出席し、その際、世界中が驚愕した9・11テロで被害を受けた「グランドゼロ」の現状もリサーチされている。そこで氏が目撃したのは、グランドゼロの復興に活躍する、銅管の姿だった…。

グランドゼロ、それはアメリカにとって特別な場所

「ニューヨークの貿易センタービルのあったグランドゼロの現場を見てきました。現在、復興作業は着々と進められていますが、地下鉄の駅舎はすでに復興し、その地下鉄駅舎の配管に、銅管が使用されていました。今日のアメリカにとって、グランドゼロは、とても重要な場所です。そこに銅管が使われていることは、それだけ銅という素材が、水道で極めて高い信頼を得ている証しだと感じました。欧米は、日本に比べて早い時代から水道の配管に銅管が使用され続けています。」

アメリカのホテルには、銅管が備蓄されている

「サミットでは、市内のホテルに宿泊しました。給水設備はどんなものなのか、セキュリティは厳しいのですが、無理をお願いして給排水や空調設備などを見学させていただきました。高置水槽はありましたが、直結給水でしたし、給水安定性を確保するために、ホテルの前と後の道路から二重に引き込んでいました。管種は、分岐部の口径の大きいものはダクタイル鋳鉄管ですが、七五mm以下は、すべて銅管です。ホテル内ではかなりの銅管を備蓄し、給水系も給湯系も断水に備えて万全の体制を整えていました。以前、ロサンゼルス市を視察した際も分岐から五〇mm以下は銅管でしたが、その傾向が現在まで続いているようです。」

今後は、環境との共生を考えた管の選択へ

「いまアメリカでは、一部の樹脂管は火災時に有毒ガスが発生するため、建築基準法で規制されており、金属管、とくに銅管が主流になっているとのことです。また、銅管はかなりの水準でリサイクルが可能であり、それも欧米での高い評価のひとつになっています。今回のサミットでは、様々な角度から地球環境への取り組みが報告されました。各国での推進はもちろん、都市レベルにおいても独自の活動を行っているようです。こうした報告を伺っていると、日本の水道界も環境との共生を真剣に考える時期に来ているのではと痛感します。その観点から考えれば、耐久性やリサイクル性の高い管や機器類がますます注目されてくると思います。」【※日本水道新聞掲載記事より】

ホテル内給水・給湯はすべて銅管

前東京都公営企業管理者
水道局長
御園 良彦氏

「第2回世界大都市気候変動サミット」のパネル会議で、水道の漏水率削減の取り組みを説明する御園氏